



Cisco UCS サーバの管理

この章は、次の項で構成されています。

- [サーバ管理, 1 ページ](#)
- [サーバの電源オン, 2 ページ](#)
- [サーバの電源オフ, 2 ページ](#)
- [サーバの KVM コンソールの起動, 3 ページ](#)
- [KVM コンソールを使用したサーバへの直接アクセス, 3 ページ](#)
- [サーバのインベントリ収集のリクエスト, 4 ページ](#)
- [サーバの診断割り込みの実行, 4 ページ](#)
- [サーバのリセット, 5 ページ](#)
- [サーバの再確認, 5 ページ](#)
- [サーバの稼働停止, 6 ページ](#)

サーバ管理

Cisco UCS Director を使用して Cisco UCS ドメイン内のすべてのブレードサーバおよびラックマウントサーバを管理およびモニタできます。

管理対象のサーバの選択方法については、[選択対象サーバの管理](#)を参照してください。

サーバの電源オン

手順

- ステップ 1 [物理 (Physical)]>[コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] ページで、Cisco UCS Manager アカウントを含むポッドを選択します。
 - ステップ 3 [UCS サーバ (UCS Servers)] をクリックします。
 - ステップ 4 電源をオンにするサーバの行をクリックします。
 - ステップ 5 [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウン メニューから [電源オン (Power On)] を選択します。
 - ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。
-

サーバの電源オフ

手順

- ステップ 1 [物理 (Physical)]>[コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] ページで、Cisco UCS Manager アカウントを含むポッドを選択します。
 - ステップ 3 [UCS サーバ (UCS Servers)] をクリックします。
 - ステップ 4 電源をオンにするサーバの行をクリックします。
 - ステップ 5 [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウン メニューから [電源オフ (Power Off)] を選択します。
 - ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。
-

サーバの KVM コンソールの起動

手順

-
- ステップ 1 [物理 (Physical)]>[コンピューティング (Compute)]の順に選択します。
 - ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] ページで、Cisco UCS Manager アカウントを含むポッドを選択します。
 - ステップ 3 [UCS サーバ (UCS Servers)] をクリックします。
 - ステップ 4 KVM コンソールを起動するサーバの行をクリックします。
 - ステップ 5 [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウン メニューから [KVM コンソールの起動 (Launch KVM Console)] を選択します。
 - ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。
Cisco UCS Director によって kvm.jnlp ファイルがダウンロードされます。
 - ステップ 7 ダウンロードフォルダ内の kvm.jnlp ファイルをダブルクリックします。
[KVMコンソール (KVM Console)] が別ウィンドウで開きます。

必要な Java ランタイム環境 (JRE) がインストールされていない場合は、ダイアログボックスの [関連情報 (More Info)] をクリックし、画面の手順に従って JRE をダウンロードしてインストールします。
-

KVM コンソールを使用したサーバへの直接アクセス

KVM コンソールを使用して UCS サーバに直接アクセスできます。

手順

-
- ステップ 1 [物理 (Physical)]>[コンピューティング (Compute)]の順に選択します。
 - ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] ページで、Cisco UCS Manager アカウントを含むポッドを選択します。
 - ステップ 3 [UCS サーバ (UCS Servers)] をクリックします。
 - ステップ 4 KVM コンソールを使用して直接アクセスするサーバをクリックします。
 - ステップ 5 [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウン メニューから [KVM 直接アクセス (KVM Direct Access)] を選択します。
 - ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。
[KVMコンソール (KVM Console)] が別ウィンドウで開きます。

ステップ7 ユーザ名とパスワードを入力し、ドメインを選択します。

ステップ8 [KVMの起動 (Launch KVM)]をクリックします。

サーバのインベントリ収集のリクエスト

手順

ステップ1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。

ステップ2 ポッドを展開して、Cisco UCS Manager アカウントをクリックします。

ステップ3 [UCS サーバ (UCS Servers)] をクリックします。

ステップ4 インベントリ収集をリクエストするサーバのテーブル内の行をクリックします。

ステップ5 [インベントリ収集のリクエスト (Request Inventory Collection)] をクリックします。

ステップ6 [送信 (Submit)] をクリックします。

サーバの診断割り込みの実行

手順

ステップ1 [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。

ステップ2 [コンピューティング (Compute)] ページで、Cisco UCS Manager アカウントを含むポッドを選択します。

ステップ3 [UCS サーバ (UCS Servers)] をクリックします。

ステップ4 診断割り込みを実行する行またはサーバをクリックします。

ステップ5 [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウンメニューから [サーバメンテナンス (Server Maintenance)] を選択します。

ステップ6 [サーバメンテナンス (Server Maintenance)] 画面で、次の手順を実行します。

a) [サーバメンテナンス (Server Maintenance)] ドロップダウンリストから、[診断割り込み (Diagnostic Interrupt)] を選択します。

b) [はい (Yes)] をクリックします。

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) から BIOS またはオペレーティングシステムに対して Non Makeable Interrupt (NMI) が実行されます。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティングシステムに応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

サーバのリセット

手順

- ステップ 1 [物理 (Physical)]>[コンピューティング (Compute)]の順に選択します。
- ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] ページで、Cisco UCS Manager アカウントを含むポッドを選択します。
- ステップ 3 [UCS サーバ (UCS Servers)] をクリックします。
- ステップ 4 リセットするサーバの行をクリックします。
- ステップ 5 [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウンメニューから [リセット (Reset)] を選択します。
- ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。

サーバの再確認

Cisco UCS Manager にサーバ、およびそのサーバのすべてのエンドポイントを再検出させる必要がある場合は、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスカバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

手順

- ステップ 1 [物理 (Physical)]>[コンピューティング (Compute)]の順に選択します。
- ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] ページで、Cisco UCS Manager アカウントを含むポッドを選択します。
- ステップ 3 [UCS サーバ (UCS Servers)] をクリックします。
- ステップ 4 再確認するサーバの行をクリックします。
- ステップ 5 [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウンメニューから [サーバメンテナンス (Server Maintenance)] を選択します。
- ステップ 6 [サーバメンテナンス (Server Maintenance)] 画面で、次の手順を実行します。
 - a) [サーバメンテナンス (Server Maintenance)] ドロップダウンリストから、[再認識 (Re-acknowledge)] を選択します。
 - b) [はい (Yes)] をクリックします。

サーバを切断し、サーバとシステム内の 1 つまたは複数のファブリック インターコネクタの間の接続を構築するよう、Cisco UCS Director から Cisco UCS Manager へリクエストが送信されます。確認が終了するまでに数分かかる場合があります。

サーバの稼働停止

手順

- ステップ 1 [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2 [コンピューティング (Compute)] ページで、Cisco UCS Manager アカウントを含むポッドを選択します。
- ステップ 3 [UCS サーバ (UCS Servers)] をクリックします。
- ステップ 4 稼働停止にするサーバの行をクリックします。
- ステップ 5 [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウンメニューから [サーバメンテナンス (Server Maintenance)] を選択します。
- ステップ 6 [サーバメンテナンス (Server Maintenance)] 画面で、次の手順を実行します。
 - a) [サーバメンテナンス (Server Maintenance)] ドロップダウンリストから、[使用禁止 (Decommission)] を選択します。
 - b) [理由 (Reason)] フィールドに、サーバを使用禁止にする理由を入力します。
 - c) [はい (Yes)] をクリックします。

Cisco UCS Director によって当該サーバがシャットダウンされ、Cisco UCS 設定から削除されて、[使用禁止のUCSサーバ (Decommissioned Servers)] タブに追加されます。